



リサーチ・クリップ

2013/2/28 No.49

リサーチ・クリップでは、最近関心の高まっている環境問題や、企業の従業員・地域社会といった様々なステークホルダー（利害関係者）との関わりなどに関する記事や情報を紹介します。

ESG

CalPERS¹ ESG²要因とその投資パフォーマンスなど財務面に対する影響を周知し、理解を深めるためのイニシアティブを発足（1月28日）

2013年1月28日、CalPERSは、持続可能性投資研究イニシアティブ（Sustainable Investment Research Initiative : SIRI）を発足させた。以下では CalPERS の ESG に関するこれまでの取り組みと、今回発足したイニシアティブについて説明する。

(1) CalPERS の ESG に関するこれまでの取り組み

アメリカでは、株主主権の考え方が強く、年金基金による投資先のコーポレート・ガバナンス³を改善する働きかけが早くから始まった。CalPERS は、その先駆けとして 1980 年代半ばから取り組みを行っている。当時、経営陣が自己保身のために特定株主を優遇する企業があったこともあり、1985 年には他の大手年金基金と共に CII（Council of Institutional Investors : 米国機関投資家協会）を設立し、株主総会における議決権行使などを行った。その後も現在まで、多くの ESG 関連組織やイニシアティブに積極的な立場で参加している。

CalPERS は、2011 年より、投資における戦略的優先事項として ESG 要因を統合することを掲げており、今回発足したイニシアティブが投資戦略を発展させる助けとなることを期待している。

¹ カリフォルニア州職員退職年金基金（The California Public Employees' Retirement System）の略称。公的年金基金として世界有数の規模を誇る。運用資産総額は 2,548 億ドル（2013 年 2 月 20 日現在）に達する。

² 環境、社会、ガバナンス（Environmental, Social, and Governance）の略称。含まれるトピックは、気候変動、労働慣行、人権、役員報酬など多岐にわたる。ESG に関する要因を ESG 要因、ESG 要因を考慮した投資を ESG 投資という。原文中では ESG と持続可能性（Sustainability）をほぼ同じ意味で用いている。そのため、混乱を避ける意図から本文中では固有名詞以外は ESG に統一し、ESG 要因、ESG 投資とした。

³ Corporate Governance: 企業統治。ガバナンスのうち特に企業を対象にしたものをいう。企業経営において、株主の利益などの目的のために健全に意思決定を行っていくこと。

(2) SIRI について

SIRIは、ESG 要因とその投資パフォーマンスなど財務面に対する影響を周知し、理解を深めるために発足したイニシアティブである。この背景には、ESG 要因が投資パフォーマンスへどのように影響を与えるかについて、学界や投資業界における国際的共通認識が未だ存在しないことがある。

SIRI では、ESG 要因が長期的な企業価値の創造や資本市場の安定化に与える影響に関する論文を募集している。応募資格は研究者、実務者を問わず、募集する学問領域も金融、経済、会計、法律、ビジネスと多岐にわたる。最も優れた論文は、2013年6月7日に開催される「持続可能性と金融シンポジウム」において研究内容の発表が行われることになっている。

この論文募集には、カリフォルニア大学デイビス校とコロンビア大学ロースクールが協力しており、加えてカリフォルニア大学デイビス校は、前述のシンポジウムの主催を務める。

SIRI 発足に関する CalPERS のプレスリリースは下記 URL にて参照できる。

<http://www.calpers.ca.gov/index.jsp?bc=/about/press/pr-2013/jan/research-initiative.xml>

(社会システム研究所CSR調査室 曾我 昂平)